

2015
10月25日
(年7回25日発行)
第447号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三浦ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL : http://www.ueki.or.jp/
E-mail : honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



(日)、東京都江東区、通称
お台場のシンボルプロムナ
ード公園にて開催されたス
ポーツ＆フラワーフェスタ
2015において、来場者
へ向けた「和のこけ玉」づ
くりワークショップを、緑
育出前授業実行委員会が主
体となり、青年部会関東・
甲信越ブロック役員協力の
もと実施した。

お台場での花みどり普及イベントにて 「和のこけ玉づくり」ワークショップを開催

緑育出前授業実行委員会



41名の受講者とスタッフでの講座実施

会は、8月27日
(木)から30日
(日)、3泊4
日の行程で群
馬県利根郡川場
村「なかのビレ
ジ」において植
生アドバイザー
育成講座を開催
した。台風の影
響で、現地では
小雨が降る中の
研修となつた。
参加者はAコ
ース25名、Bコ
ース13名、Cコース3名の
合計41名。内訳は協会会員
が12名、会員外が29名。受
講者構成は、北は秋田県か
ら、南は九州大分県と広範
囲にわたり。1年ぶりの再
会や数年ぶりの再会で和気
あいあいとした雰囲気で
あつた。

Aコースは例年になく25
名の大部隊となり講義室が
熱氣にあふれる講義となっ
た。Cコースは3名でアッ
トホームな感じであった。
初日の安全講習は、今年
よりなかのビレジ所長の岸

植生アドバイザー育成講座に41名が参加

植生調査委員会

先生に担当いただいた
2日目に行ったバーベキュー
の夕食ではお互いの情報
交換の場としてコミュニケーションが図れ、後日に繋
いた。

各コースとも、夜遅くま
で補習や調査表のまとめを
行う班があった。朝・昼・
晩とハードながら有意義な
講座を実施した。

平成28年度林野庁 関係予算概算要求について



Bコース野外実習風景

伐対策室の吉村室長および
重松係長が来会され、平成
28年度林野庁関係予算概算
要求の概要として、次世代
苗木生産システムの構築と
苗木安定供給推進事業につ
いて説明された。

伐対策室の吉村室長および
重松係長が来会され、平成
28年度林野庁関係予算概算
要求の概要として、次世代
苗木生産システムの構築と
苗木安定供給推進事業につ
いて説明された。

各コースとも、夜遅くまで補習や調査表のまとめを行
う班があった。朝・昼・晩とハードながら有意義な講
座を実施した。

伐対策室の吉村室長および
重松係長が来会され、平成
28年度林野庁関係予算概算
要求の概要として、次世代
苗木生産システムの構築と
苗木安定供給推進事業につ
いて説明された。

伐対策室の吉村室長および
重松係長が来会され、平成
28年度林野庁関係予算概算
要求の概要として、次世代
苗木生産システムの構築と
苗木安定供給推進事業につ
いて説明された。</p

資格認定委員会を開催

8月3日(月) 15時34分
より協会会議室にて27年度

定資格認定委員会が開催さ
れた。出席者は、

涌井史郎委員長、

濱野周泰副委員

長、卯之原昇、枝

吉茂種、高梨雅

明、山本紀久、船

彦各委員、および

橋修一、川原田邦

日(土) 西日本短期大学に

於いて実施され20名の受験

者が試験に臨んだ。合計51

名の受験者数となった。成

績結果は、1級5名、2級

9名、3級9名、初級28名。

・模範解答は7月31日(金)

に協会ホームページに掲載

し、問題別の正答数及び正

答率が報告された。

②その他

・実施アンケートの結果報

われた。

次に如何に価格調査提出

会社数を上げていくかにつ

いての議論となり、両調査

行で議事に入つた。



議事内容

両調査会と懇談会を開催

9月10日14時より供給可

能委員会、(一財)建設

物価調査会、及び(一財)

経済調査会の意見交換会が

開催された。

開催に先立ち各人の自己

紹介を行い、佐久齋貢長の

挨拶後、議題に沿い会議は

進行した。

最初に、両調査会の樹木

調査価格について物価上昇

分や経費増が反映されてい

ない様に思われるという意

見に対して、両調査会の考

え方は、あくまでも調査価

格を掲載しており、価格提

出会社が諸事情を反映した

価格を提出しなければ結果

には反映されないという返

答で、両調査会では価格調

整を行っていない事を強調

した。

両調査会と懇談会は開催

され、再度、豊かな

国土を認識させ

られ、再度、豊かな

国土を認識させ

る講演でスタート

をした。

次に震災を樹木

(タブノキ)が津波を弱め、背後の

林(ヤブツバキ)、

土地的極相では落葉広葉樹林(イヌシテ)、常緑広葉樹の北限(タブノキ)等を例に報告を行った。基本事項を理解出来た委員もおり、基本的な事項について意見交換を行った。基本事項を理解した委員は、今後価格調査に協力するとの意見があり、有意義な意見交換会となつた。

緑化通信は、今後は属性等の項目を工夫する意見がなされた。



今年度は、東京会場・福岡会場では7月4日(土)東京農業大学に於いて実施され31名の受験者が試験に臨み、福岡会場では7月11日(土)西日本短期大学に於いて実施され20名の受験者が試験に臨んだ。合計51名の受験者数となつた。成績結果は、1級5名、2級9名、3級9名、初級28名。

・模範解答は7月31日(金)に協会ホームページに掲載し、問題別の正答数及び正答率が報告された。

②その他

・実施アンケートの結果報

された。

次に如何に価格調査提出

会社数を上げていくかにつ

いての議論となり、両調査

行で議事に入つた。

最初に、両調査会の樹木

調査価格について物価上昇

分や経費増が反映されてい

ない様に思われるという意

見に対して、両調査会の考

え方は、あくまでも調査価

格を掲載しており、価格提

出会社が諸事情を反映した

価格を提出しなければ結果

には反映されないという返

答で、両調査会では価格調

整を行っていない事を強調

した。

次に震災を樹木

(タブノキ)が津波を弱め、背後の

林(ヤブツバキ)、

土地的極相では落葉広葉樹林(イヌシテ)、常緑広葉樹の北限(タブノキ)等を例に報告を行った。基本事項を理解した委員もおり、基本的な事項について意見交換を行った。基本事項を理解した委員は、今後価格調査に協力するとの意見があり、有意義な意見交換会となつた。

告がされ、今後は属性等の項目を工夫する意見がなされた。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

か企画の検討意見がでた。

また、4年連続受験しか

つ2年連続トップの成績を

れた。

地域性植物適用委員会

が開催

された。

・第1回から今回の第9回

で累計378名となり、来

年度は第10回にあたり、何

</

年間特集

街路樹を考える

名古屋市「街路樹再生指針」～街路樹再生により都市と市民が輝く名古屋を創造する～

名古屋市 緑政土木局 緑地部 緑地維持課長 川崎 淳裕さん



管理が困難な大高木



倒木事故の発生

そこで、本市では平成25年3月名古屋市緑の審議会へ「都市空間における街路樹のあり方について」諮問し、千葉大学池邊このみ教授を部会長とする街路樹部会の審議を経て、翌年7月に答申をい

緑の審議会答申に 基づく街路樹再生指針

名古屋市の街路樹（高さ3m以上の高木）は、平成26年4月現在約10万4千本となり、市域における街路樹密度において、大都市のトップクラスとなっています。しかし、その一部は40年以上が経過し、大木化や老朽化に伴う倒木や枯れ枝の落下、根土がりによる事故リスクが増大しています。また近年では信号や標識・街路灯など道路空間で街路樹と競合する施設は増加し、限られた予算、従来の維持管理手法では対応できない課題が山積しています。

街路樹の老朽化・大木化

ただきました。

では半減しています。花壇や除草を削減して確保してきた剪定費用も、さらに厳しくなっています。

そこで、老朽化・大木化が進み、成長が早く、毎年剪定が必要

街路樹は、道路法に道路付属物として位置づけられており、人々や車が行きかう場所で街路樹の落枝や倒木を防ぐことは道路管理者の責務です。しかし、維持管

根上がりによる通行支障

持続可能なしぐみ

内容はシンプルです。(1)朽化・大木化し倒木の恐ねある街路樹は植え替える。落枝の恐れがあり大きくなすぎた街路樹は点検・管理能な大きさに仕立て直す。植え替えるときは、沿道のなさんと相談しながら樹木を選び、市民・企業・行政の効働により育て、街の魅力をめぐる。というものです。

その後、市内検討会を経て、名古屋市今木交通委員会のご意見を伺い、今年8月「街路樹再生指針」を策定・公表しました。「街路樹再生指針」は、本市公式ホームページからダウンロードできますのでぜひご覧ください。



都市魅力を高めるシンボル並木 (中区広小路通)

なアオギリやナンキンハゼなどを、ハナミズキやサルスベリなどに植え替えることにより、事故のリスクを軽減し、街に彩を添え、さらに維持管理費を軽減しようとというのが再生指針発想の原点です。当面は、アオギリ、ナンキンハゼを中心とさせて1万本の半数5千本、全街路樹の5%の更新を想定しています。今後は指針の着実な推進に向けて、財源の確保に努めたいと考えています。また、計画的な植え替えを推進することは、安定した樹木の流通にも効果があると考えています。

街路樹による 街のブランド力向上

街路樹は街を印象付ける重要な「環境インフラ」です。先の答申でも、集客力や不動産価値など都市のブランド力を高める可能性が指摘されています。本市では、恵まれた道路空間の街路樹ストックを活かし、街路樹再生を進めてまいります。老朽化・大木化した樹木の更新、都市に風格をもたらすシンボルとなる木の安全管理など、名古屋の魅力向上に取り組んでまいります。



初めてのシンポジウム形式 平成27年度青年部会研修会

青年部会 副部會長 事業委員 郡司 寛之

打ち合わせの中で、設計者と生産者(卸)には業務上ギャップがあり、私達の業務とは少しけ離れた講演の内容になりそうだと感じました。そんな中、講師の方のご提案で一方的な講演形式の他に、少しでも疑問に答えるられる座談会形式の講



2部シンポジウムは、造園設計・施工関係3講師(ステージ左手)と協会員3名(ステージ右手)による討論。

